

建築設備技術遺産に3件

JABMEE 6月23日に認定式



新晃SRD型エアディフューザ

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は、建築設備の「技術」「役割」「文化」を多くの人たちに知ってもらうことを目的に選定している「建築設備技術遺産」の17年度認定遺産を決めた。認定委員会(委員長・鎌田元康東、大名誉教授)が「新晃SRD型エアディフューザ」

(新晃工業)など3件を認定した。認定式は、6月23日に東京都港区の明治記念館で開く総会の終了後に行



ホーム分電函

われる。

認定されたのは、▽新晃SRD型エアディフューザ
▽ホーム分電函(BBK-3)
▽TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵



TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓

自動水栓の3件。

建築設備技術遺産は、空調・衛生・電気・搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す「事物」「資料」が認定対象で、今回が6回目の認定。

今回認定された3件の管理者は次の通り。
▽新晃SRD型エアディフューザ||新晃工業
▽ホーム分電函(BBK-3)||河村電器産業
▽TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓||TOTOMIミュージアム。

JABMEE 17年度の建築設備技術遺産 3領域・3件を認定

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は2017年度の建築設備技術遺産として新晃工業のSRD型エアディフューザなど3件を認定した。6月23日の通常総会後に認定証授与式を行う。

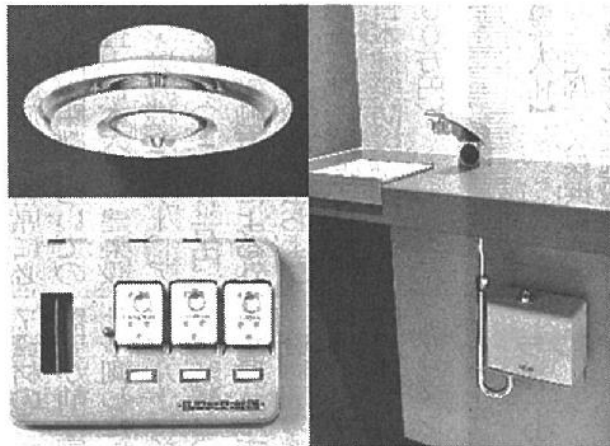
建築設備部門の技術と設備関連情報などを次世代に伝えることを目的に12年度にスタートした認定制度で、これまでに29件を認定した。6回目の今回は▽空調領域▽電気領域▽衛生領域の3領域で1件ずつ認定し、技術遺産は合計32件となった。

建築設備技術遺産認定委員長の鎌田元康(東京大学名誉教授)は「文献やカタログが残っている設備を審議し認定する。歴史的設備でも建物の解体時に知らずに処分されてしまうことがある。使われていない設備でも大切に残すことができれば」と話す。

今回の認定技術遺産は次の3件(①管理者②所有者③講評)。

▽認定第28号・新晃SRD型エアディフューザ
①新晃工業②同③1962年竣工の住友ビル本館に約7000個設置された吹出・吸込兼用の風量調整機構付エアディフューザ。オフィスのモジ

ユール化、空調環境制御果たした。SDRはSupply Return Damp



新晃SRD型エアディフューザ(左上)、ホーム分電函(左下)、自動水栓全体像(右)

erの頭文字。▽認定第29号・ホーム分電函
①河村電器産業②同③住宅引き込み口の過電流保護のカットアウトスイッチを収納し、感電や火災防止などの電気安全に大きく寄与した。現在の住宅用分電盤の原型となった。

▽認定第30号・TOT Oミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓
①TOT Oミュージアム②同③医科用などで普及していたセンサー付き水栓に、その後開発された小型の光電センサーを組み込んだ。節水性と衛生性が向上した他、清掃が楽であるなどの利点もあって広く用いられるようになり、自動水栓の開発と普及、技術の進歩に寄与した。

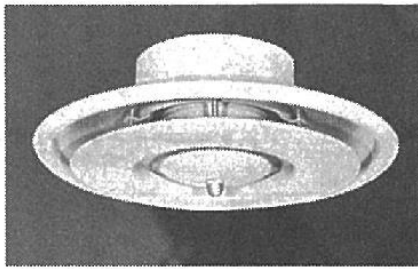
建築設備遺産新たに3件

エアディフューザなど認定

JABMEE

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は、17年度の建築設備遺産として、これまでに認定した29件(特別認定2件含む)に加え新たに3件を認定した。同認定制度は、建築設備技術を次世代に伝えることなどを目的に2012年度に創設したもので、今年で6回目。

今回の認定は、空調・



新晃SRD型エアディフューザ

電気・衛生の3領域から各1件の計3件。空調領域からは認定第28号「新晃SRD型エアディフューザ」(管理者・所有者「新晃工業」、電気領域から認定第29号「ホーム分電箱(BBK-3)」(管理者・所有者「河村電器産業」、衛生領域か

ら認定第30号「TOTOミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓」(管理者・所有者「TOTOミュージアム」)。新晃SRD型エアディフューザは、55年前に採用された空調制気口。オフィスモジュール化初期の製品で、技術遺産として認定評価された。

認定証授与式を6月23日の通常総会終了後に行う。